

様式第2号(第7条関係)

会議の開催結果

1 会議の名称	令和4年度第1回 さいたま市岩槻人形博物館運営委員会
2 会議の開催日時	令和4年9月1日(木曜日) 午後3時00分～午後5時00分
3 会議の開催場所	さいたま市にぎわい交流館いわつき 多目的室
4 出席者名	新井委員長、是澤副委員長、大越委員、 清水委員、中村委員、抜井委員、水落委員、 三次委員、森田委員
5 欠席者名	小林委員
6 議題及び公開又は非公開の別	(議題) 1 報告事項 (1) 事業計画実施状況及び令和4年度事業計画について 2 審議事項 (1) 運営方針案について (2) 令和5年度事業計画案について (公開又は非公開の別) 公開
7 非公開の理由	—
8 傍聴者の数	0名
9 審議した内容	(1) 運営方針案について (2) 令和5年度事業計画案について
10 問合せ先	スポーツ文化局文化部 岩槻人形博物館 電話 048-749-0222 FAX 048-749-0225
11 その他	—

令和4年度第1回さいたま市岩槻人形博物館運営委員会 会議録

- 1 日 時 令和4年9月1日(木) 15時06分から17時分まで
- 2 場 所 にぎわい交流館いわつき 多目的室
- 3 出席者 (1) 委員(9名)
新井久代委員長、是澤博昭副委員長、大越久子委員、清水一郎委員、中村美帆委員、
抜井ゆかり委員、水落恵一委員、三次宣夫委員、森田由美子委員
(2) 事務局
スポーツ文化局 鶴田局長、川田文化部長
岩槻人形博物館 田中館長、岩崎副館長、池田主幹、菅原係長、清水主査、蟹沢主任
※オブザーバー にぎわい交流館いわつき 中村館長、大金運営統括マネジャー
(3) 欠席者(1名)
小林健委員
- 4 公開・非公開の別 公開
- 5 傍聴人の数 0名
- 6 内 容 以下「次第」のとおり
＜次第＞
 - 1 開会
 - 2 委員紹介
 - 3 委員長等選出
 - 4 報告事項 (1)事業計画実施状況及び令和4年度事業計画について
 - 5 審議事項 (2)運営方針及び事業計画案について
(3)令和5年度事業計画案について
 - 6 その他
 - 7 閉会

＜議事内容要約＞

委員長等選出

委員の互選により、新井久代氏が委員長となり、是澤博昭氏が副委員長となる。

報告事項(1) 事業計画実施状況及び令和4年度事業計画について

事務局から資料に基づき説明があり、これに対し各委員から以下のとおり意見があった。

- それぞれの展覧会について、どのような成果及び課題があったかを考えておくことが大事である。雛まつりシーズンは一定の来館者数が見込めるため、この時期に雛祭り展を開催し、その上で、それ以外の展覧会の開催時期を工夫して決めていくべきと考える。
- 来館者数については1～3月をピークとして4、5月まで続くイメージがあり、ゴールデンウ

イクが勝負と考える。節句を中心に長期的な視点で企画を決めていくべきと考える。来館者数だけを気にすると一過性のイベントで終わってしまうので、2、3年のスパンで調査を進め、人形文化の中でこれまでの枠を出るような企画を考えてもらいたい。

- 11月17日に開館1000日を迎えるが、こうした機会をプロモーションにつなげたり、或いは原点回帰を図り、この館のミッションやターゲットを改めて考えるきっかけにすると良い。この館のミッションは、人形ファンの裾野を広げること又は育てることだと思っている。地域の核となる拠点施設に人が集まらなくては、地域の活性化も図れない。何よりコアな人形ファンではなく、次世代を引き込んでいかなければ数年後この館は危うくなる恐れもある。公立博物館である以上、ターゲットは興味がある一定層ではなく130万人市民になると思うので、資料のとおり広く発信していくことが重要となる。そのため、展示に当たり、分かる人にだけ分かってもらえれば良いとの感覚がもし少しでもあるならば大きな問題である。広報に当たっても、デザインや媒体ありきではなく、ターゲットを決めてから、それに合ったものにしていく必要がある。
- この館に対しては、展示室が狭いとの意見が多く、滞在時間の短さにつながっていると考えられる。滞在時間の長さは満足度に直結するので、展示室以外のスペースについて、活用できる方法を考えるべきである。
- DXも少しは意識しないと取り残されてしまうので、先のことも考えていくべきである。
- これまでの取組に関する報告を聞いた限り、人形資料の収蔵内容、周辺地域の様々な施設などポテンシャルが高く、多くの人から愛されている施設であるとの感想を抱いた。
- 年間の山、谷の傾向が分かってきたかと思うので、一番の山となる雛祭りを基軸に、その時期に施策を集中するなど1年間のスケジュールを検討した方が良い。
- ターゲットについては、広げるとぼやけてしまうので、アンケートなどによる年齢等のデータ分析を行い、きちんと見定めるべきである。
- アートのまちをもっと前面に押し出し回遊性を持たせるべきであり、アートツーリズムを検討しても良いかと考える。
- 長年事務局をやっている、まちかど雛めぐりについては、爆発的な集客力を有し、この館の来館者数にもっと結び付いていくはずのイベントなので、つくづく新型コロナの影響が残念でならない。引き続き、地元の人々とこの館がどう結びついて発展していくかを注視していく必要があると考えている。
- せっかくの施設なので、実際に入ってもらい見てもらわないともったいない。どんなに良い展示だったとしても見てもらえなければ仕方がないので、例えばにぎわい交流館いわつきでのイベントの後などに博物館にも行ってみようという気持ちにさせる仕掛けを考えていくべきではないか。オブジェや組合から他都市の博物館などに寄付した人形など、それを見に来る人がいるようなものを入口に置くことも効果はあると考える。また、企画展として世界の人形を展示し、歴史的背景なども含めて日本人形との違いを見せていくなど、楽しそうと思わせる企画をもっと考えて開催してもらいたい。

審議事項(1) 運営方針及び事業計画案について

(2) 令和5年度事業計画案について

事務局から資料に基づき一括説明があり、これに対し各委員から以下のとおり意見があった。

審議結果として、意見がなかったものについては、いずれの案についても了承とされ、意見があったものについては、市の方できちんと検討の上で決めることとされ、その結果は、次回委員会で市から報告を受けることとされる。

- 令和5年度事業計画案において、共催展があるが、こういったものを適宜取り入れていくことは良いチャンスにもつながり悪くないと思う。ただし、特定の団体に偏るといわずに圧力団体になる可能性があるため5年限定にするなどの検討は必要と考える。
- 一方で、修復展は岩槻人形博物館だからこそその展覧会であり、どこかでやらなければならないことだと考える。
- 広報については、先の情報を出すのがいつも遅いと思っている。内容が薄くても構わないので、一年先の情報を出していくべきである。
- 広報に関しては、対応が可能であれば、次回の展覧会だけではなく年間の案内をすぐにも掲載した方が良い。
- 令和5年度の展覧会については、企画展として3案のいずれかを開催する計画案になっているが、どれも魅力的と考える。修復成果展も多く来館者は見込めないかも知れないが、修復はこの館が誇れることなのでやるべきであり、3案のうちどれを次年度以降に回すべきか判断が難しいところであるが、節句時期の雛祭り展は、令和5年度に限らず通例としていく方が良いと考える。
- 今後の展覧会について、1～3月は全国的な節句の機運にのって毎年のパッケージとして繰り返しでも良いので雛祭り展を行うべきと考える。修復展は、この館でしかできないことであり集客のことは言わずに開催すべきである。共催展については、日本工芸会に対する担当の学芸員を一人配置して企画していく必要があると考える。フィギュアなどは現在の集客にはつながるが、長期的な視点で見た場合、一過性のイベントで終わってしまう可能性があり文化の発信にはならない。公立の博物館なので、長期スパンで計画を考えるべきである。
- 集客を考える一方で、旧来の博物館の役割もある。公立博物館ならではのいろいろな切り口ができると思うので検討いただきたいと思う。
- 集客については、所蔵する最高の素材をどう調理して、どう分かりやすく発信していくかを考えていく必要がある。人に見てもらわないことには話にならない。告知に当たっては、ターゲットによってポイントは異なるので、きちんとターゲットを決めた上で、それに応じて媒体を決め、その上でビジュアルを決めていく必要がある。
- この館は、文化の振興を観光や地域振興につなげ、その経済効果を文化振興に還元する趣旨の文化観光振興法に合うものとする。補助金なども用意されているので、アンテナを張っておくと良いのではないかと考える。

- 博物館の在り方に関する議論の動向として、博物館法の改正が挙げられるが、デジタルアーカイブ化を進めていくのであれば補助金が活用できる。デジタル化については、現時点で導入までいかなくても検討は始めていかないと、将来的に取り残されてしまう恐れがある。また、ICOMもミュージアムの新定義を採択したところであり、コミュニティへの参加や持続可能性の重要性が盛り込まれた。今後の動向を注視しながら館運営に当たっていく必要があると考える。
- この館は駐車場が広いのでバスツアーに向いていると思う。格安ツアーなどではなく、クラブツーリズムでは教養を高めようという趣旨のツアーもあり、この館に向いていると思う。ツアーを組んでもらうには、ほかにはないサービスが求められるが、そもそも展示スペースが狭いこともありバックヤードツアーなどを考えて良いのではないかと考える。普段見ることができないものを見せるという発想が大切と考える。その発展形として、資料に掲げている教育普及事業において、例えば愛好家を育成する人形大学などリカレント教育の取り込みについて検討を進めることも先々の話として良いのではないかと考える。
- 展示だけでは満足しない層の取り込みを念頭に、見せる修復やコロナの状況を見ながらになるかと思うが体験などについても検討してもらいたい。
- 文化の観点から商業イベントを行い、岩槻のまちに人が集まるよう活動しているところである。博物館には博物館としての持ち分があり、誰でも良いので来てもらいたいというものではないのかも知れないが、やはり一人でも多くの人に見てもらいたいと思っており、人形とのつながりが深い五節句を中心に活動を続けていきたいと考えている。そうした中で、展連会の開催に当たっては、人形文化だけではなく、五節句と人形の連携を意識してもらえると幅も広がるのではないかと考える。
- 運営方針についても事業計画についても案のとおりで良いと考える。
- 岩槻はほとんどが家内工業であり、職人の技術をもって多くは全国に発送しており、取引相手は岩槻ではない。つまり、技術を持った者がいなくなると終わってしまうようなまちである。しかしながら、多くは儲からないため後継者もおらず、どのように伝承していくかということが課題になっており、伝統や技術を広く一般に知らせ、関心を持った者が集まってくれるような場が必要となっている。そのため、この館で、製造工程の映像を流したり、一連の作業を見せることで、公立博物館として地域課題に貢献できると考える。

会議録作成

事務局が作成の上、その確認については委員長に一任することとされる。

令和4年度第1回さいたま市岩槻人形博物館運営委員会 次第

日時：令和4年9月1日（木）

15時から17時まで

場所：にぎわい交流館いわつき多目的室

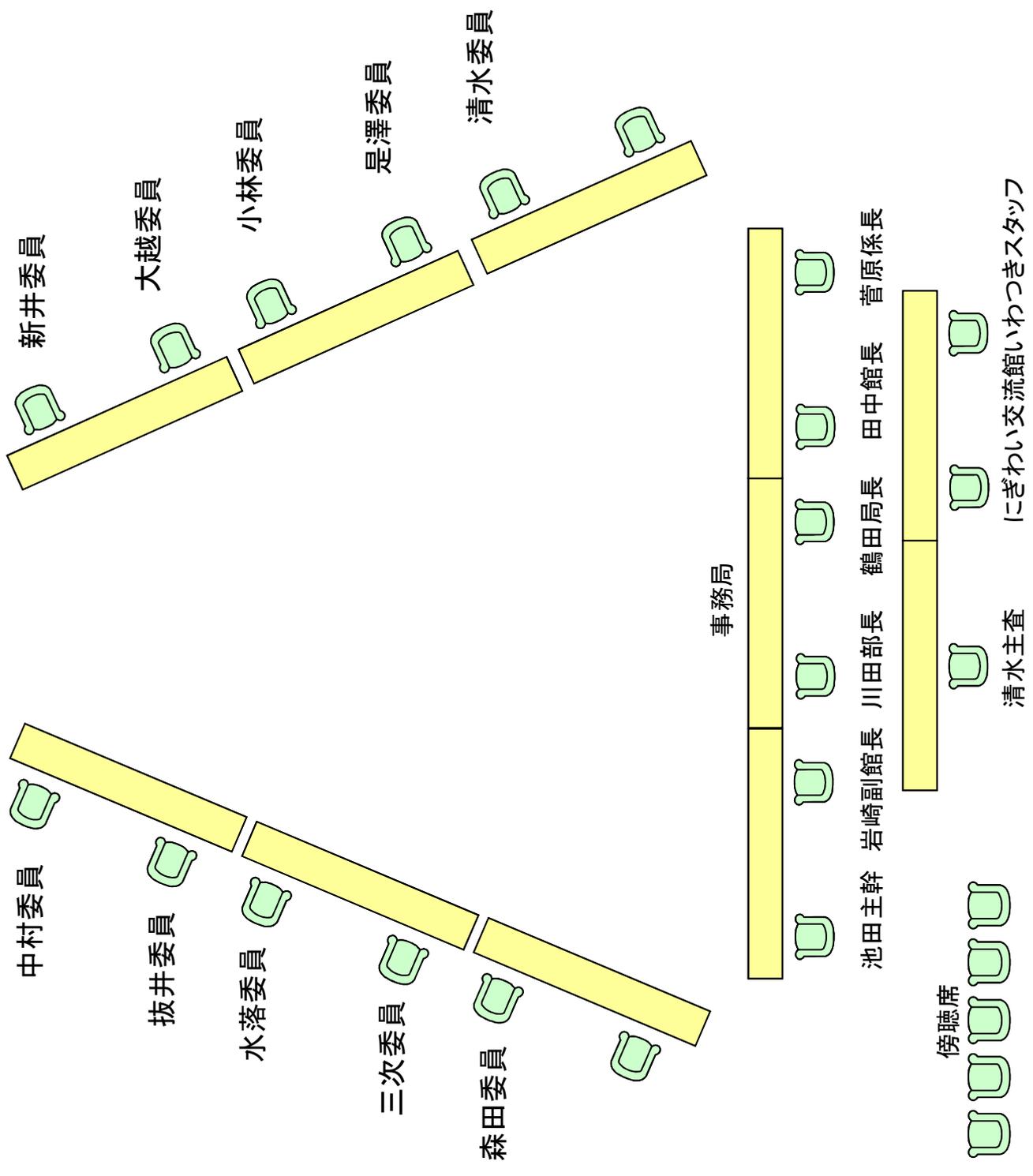
- 1 開会
- 2 委員紹介
- 3 委員長等選出
- 4 報告事項
 - (1) 事業計画実施状況及び令和4年度事業計画について
- 5 審議事項
 - (1) 運営方針及び事業計画案について
 - (2) 令和5年度事業計画案について
- 6 その他
- 7 閉会

委員名簿 (敬称略 五十音順)

氏名	所属
新井 久代	公益財団法人遠山記念館 学芸員
大越 久子	埼玉県立近代美術館 主任専門員
小林 健	東武鉄道株式会社 エリア統括マネージャー
是澤 博昭	大妻女子大学 教授
清水 一郎	ちばぎんひまわりギャラリー
中村 美帆	青山学院大学総合文化政策学部 准教授
抜井 ゆかり	立教大学 兼任講師
水落 恵一	NPO法人岩槻・人形文化サポーターズ 理事
三次 宣夫	岩槻区自治会連合会 会長
森田 由美子	岩槻人形協同組合 婦人部長

任期：令和4年9月1日から令和6年8月31日まで

席次



報告事項

- (1) 事業計画実施状況及び令和4年度事業計画について

		2020年											
		令和元年度											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
来館者数												9,887	845
学小中 校数												-	-
企画展示													2/22~3/1(9日間) 開館記念展 雛人形と犬宮・天 児・這子 10,732名
常設 展示													
広報													
WS・講 演会座													
地域 行事													まちかど雑めぐり・流しびな
社会 情勢													休館

2月22日
開館

開館前各種広告・イベント

まちかど雑めぐり・流しびな

休館

		2021年											
		令和2年度											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
来館者数		0	0	2,334	2,968	2,914	2,546	5,209	5,137	1,504	938	3,643	3,978
小学校・中学校数		—	—	—	—	1校 (34人)	4校 (371人)	10校 (908人)	4校 (406人)	2校 (170人)	—	—	4校 (310人)
企画展示					7/11～8/23(34日間) 開館記念展 雛人形と犬宮・天 児・這子 4,711名			10/3～11/23(45日間) 特別展 こどものかたち 9,560名					3/23～5/5(39日間) 企画展 天野家の雛祭り 5,309名
常設展示					節句・御所人形等	衣裳・創作人形等	節句・御所人形等	節句・御所人形等	衣裳・創作人形等				
広報							交通広告	映画広告	WEB広告				雑誌広告
WS・講演会							10/10 講演会 10/11、10/25 スライドトーク	11/8 講演会 11/3、11/21 スライドトーク					
地域行事							重陽の節句 展覧会連携(地球ポイント)						まちかど雛めぐり・流しびな 展覧会
社会情勢													緊急事態宣言 休館(3/2～6/1)

		2023年											
		令和4年度											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
来館者数		1,419	2,751	2,016	1,847								
学小 校中 教		—	4校 (464人)	7校 (576人)	5校 (333人)	—	1 2校	9校	6校	3校	2校	2校	0校
企画展示			4/29~8/21 (94日間) 特集展示 郷土玩具 8,047名				9/23~12/4 (64日間) 特別展 人形作り いろはの“い” ~後世に伝えたい桐壱の技~				1/28~3/19 (44日間) 企画展 (仮) 描かれた雑糺り		
展示		Wケース	Wケース	Wケース	Wケース	Wケース	Wケース	Wケース	Wケース	Wケース	Wケース	Wケース	Wケース
展常		節句・御所人形等	節句・御所人形等	節句・御所人形等	節句・御所人形等	節句・御所人形等	節句・御所人形等	節句・御所人形等	節句・御所人形等	節句・御所人形等	節句・御所人形等	節句・御所人形等	節句・御所人形等
示設		衣裳・創作人形等	衣裳・創作人形等	衣裳・創作人形等	衣裳・創作人形等	衣裳・創作人形等	衣裳・創作人形等	衣裳・創作人形等	衣裳・創作人形等	衣裳・創作人形等	衣裳・創作人形等	衣裳・創作人形等	衣裳・創作人形等
広報						テレビ対談収録 (9/19放送)		映画広告	交通広告	講演会			
報													
講演													
講座													
行事		市民の日	端午の節句	七夕の節句	七夕の節句	岩槻まつり	重陽の節句	鷹狩り行列 人形供養祭	10/8 展示解説 10/15WS 10/23 講演会 10/30 展示解説	11/5 講演会 11/12WS 11/19 展示解説	人日の節句	まちかど雑めぐり・ 流しびな等	
地域													
情勢													

予 定

その他の実施状況

1 ボランティア状況 ※令和4年度は8月末現在(現在募集中)

年度	採用人数	研修回数
令和2年度	4人	13回
令和3年度	3人(計7人)	7回
令和4年度	0人(計7人)	5回

2 収集件数(購入、寄贈)

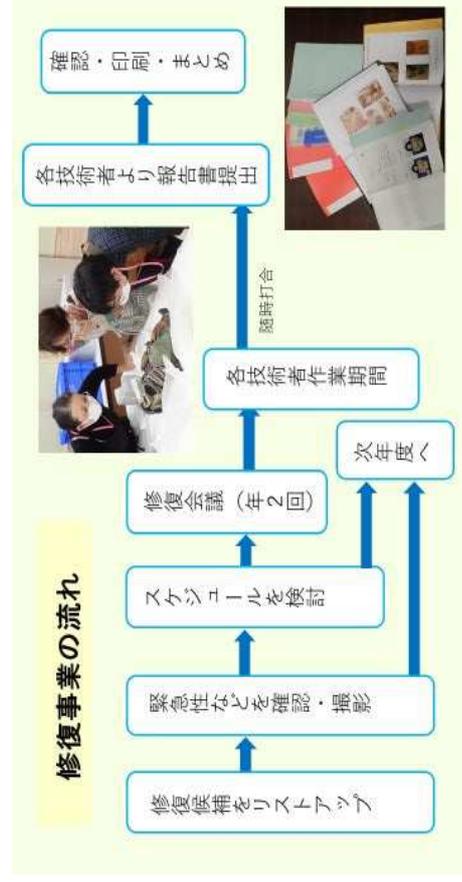
※令和4年度は8月末現在

年度	購入件数(金額)	寄贈件数	合計件数
令和元年度以前	1,003件(62,916,695円)	5,354件	6,357件
令和2年度	8件(1,986,100円)	56件	64件
令和3年度	10件(2,000,000円)	15件	25件
令和4年度	0件(-)	63件	63件
合計	1,021件(66,902,795円)	5,488件	6,509件

3 修復の取組

4名の修復技術者(会計年度任用職員)により実施

年度	修復件数
令和元年度以前	397件
令和2年度	67件
令和3年度	39件
令和4年度	(未定)
合計	503件



審議事項

- (1) 運営方針及び事業計画案について

1 岩槻人形博物館の概要

(1) 整備時の施設コンセプト

整備事業の目的

伝統のある人形文化の振興を図るための拠点施設の整備

岩槻は、日本有数の人形生産地として知られており、その職人技術は、江戸時代に花開いた衣裳人形や木目込人形の伝統を受け継ぐものであり、日々の生活の中に、人形が身近なものとして根付いています。

このように「人形のまち」として知られる岩槻で、育まれ受け継がれてきた伝統のある人形文化の振興を図るための拠点施設として、岩槻人形博物館を整備します。

拠点施設 さいたま市岩槻人形博物館

＜基本的な役割＞

伝統文化の
保存・継承拠点

市民の
学習・交流拠点

まちの魅力と
にぎわいを
高める拠点

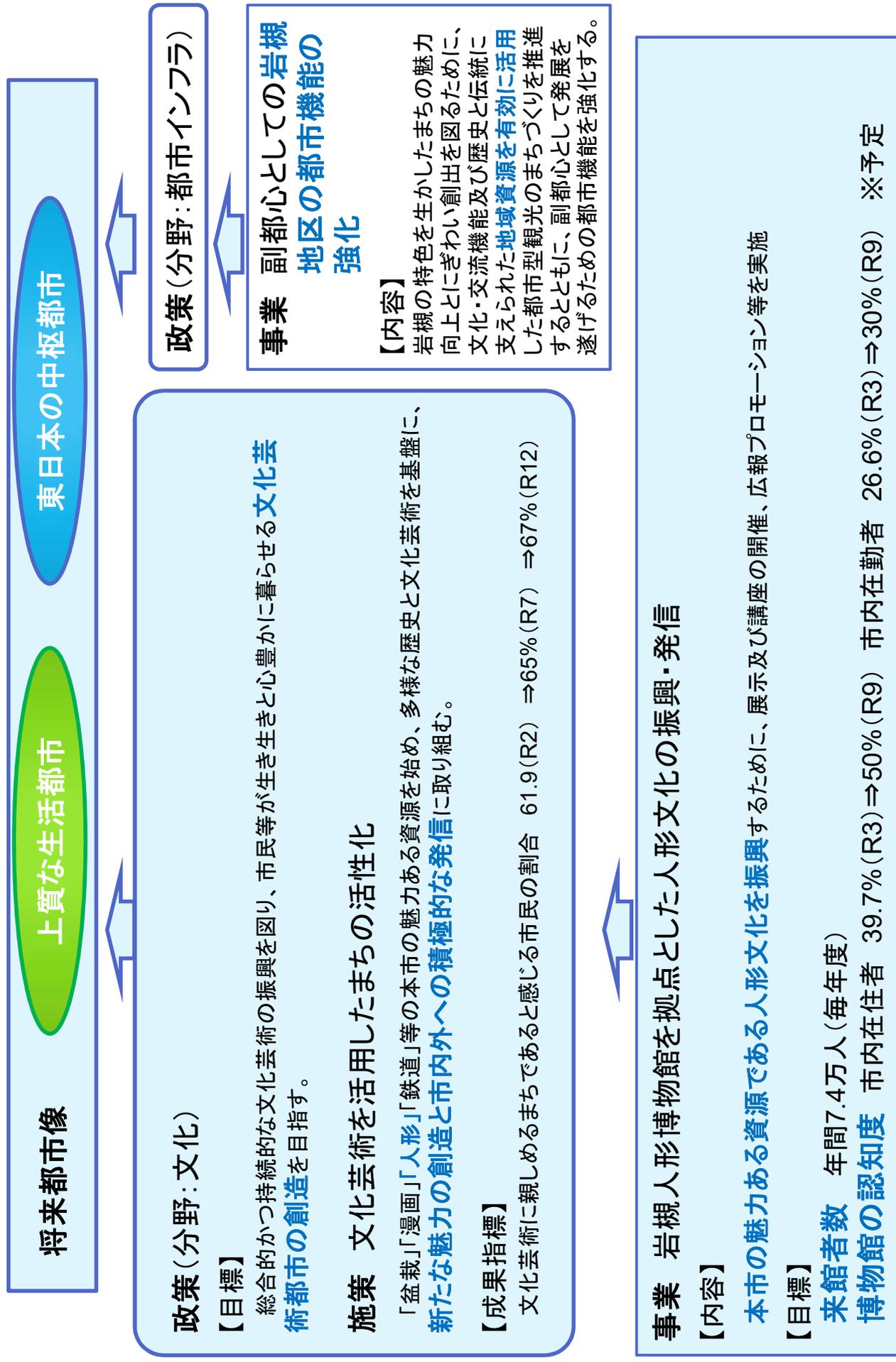
観光振興や
人形産業活性化の
一助となる施設

施設コンセプト

＜目的＞人形文化を広く内外に発信する

人と人形の歴史を探り、
未来へと人形文化を継承する博物館

(2) 市政運営上の位置付け



2 運営方針(案)

(1) 運営に関する基本的な考え方

ア 調査・研究を核とした専門性の高い運営

様々な側面を持つ日本人形について、広範に調査・研究を行うことができる専門性の高い学芸スタッフを配置し、博物館や美術館、また人形の専門家のご意見を取り入れながら、全国に人形情報を発信し、展示として多くの人々に公開するなど、専門性の高い運営を行う。

また、文化財保護の観点から人形の修復が可能な人材を配置することで、より専門性の高い運営を可能とする。

イ 高品質で親しみが持て、季節感を感じさせる運営

日本人形は、美術品として、愛玩品として、さらには歳時を司る重要な要素として日本人の生活の中に深く根ざしている。そういった人形が与えるさまざまな印象をより引き立たせるために、高品質で、親しみが持て、さらには季節感が感じられる運営を目指す。常に清掃が行き届いた清潔な空間や厳選された展示品の数々で高品質な空間を提供する。また、子供から高齢者、さらには外国人といった人々にも障壁を作らない接遇やサービスで親しみを生み出す。さらに季節に合わせた企画展やイベントにより日本ならではの四季折々の季節感を創出する。

ウ 地域と連動した継続・発展性のある運営

地域の人形文化を支える人形協同組合や市民などとパートナーシップを結ぶ事で、地域に愛される、地域の施設を目指し、継続的で発展性のある運営を実現する。

地域の祭りなどに連動した企画展やイベントの開催、岩槻人形協同組合と連携した児童・生徒を対象としたワークショップの開催、周辺住民を対象とした各種講座・セミナーを開催する。

エ 効率的・効果的な運営

高品質な運営を目指すとともに、民間活力やアウトソーシングを活用するなど、効率的で効果的な運営を行っていく。
また、展示や運営について、定期的に評価するシステムを構築し、その結果をフィードバックするなどして、運営の最適化を図る。

(2) 事業構成

ア 調査・研究事業

- 人と人形の関わりを体系的に探り、人形文化を地域に根付かせ、未来へと伝える

イ 収集・保存事業

- 貴重な資料を集める・守る・伝える

ウ 展示事業

- 【常設展示】 ● 人形の歴史やくらしの中での役割を紹介し、人々の人形への親しみを醸成する
- 【企画展示】 ● 季節毎に特徴のある企画展示を行い、集客力を高める

エ 教育普及事業

- 多様な体験で来館者と人形を結びつける ● 若手作家の育成を支援する

オ 情報受発信事業

- 人形について幅広い情報を収集し提供する ● まちや施設についての情報を提供する

カ 交流事業

- 市民と観光客の交流を促進しまちの活性化に寄与する ● 各地の関連施設や機関と交流を促進する

キ 飲食・物販事業

- 施設訪問の記念となるものや書籍を販売する

ク その他の事業

3 事業計画(案)

(1) 調査・研究事業

<基本方針>

- 人形文化を根付かせ、未来へと継承するために、「人形」について、その歴史やくらしの中での役割を体系的に調査・研究し、展示などで広く発信する。
- さいたま市が所蔵する西澤コレクシヨンの調査・研究を行い、その成果を展示などに生かす。
- 岩槻そして埼玉の人形製造の歴史について調査・研究を行い、地域の活性化に寄与する。

(2) 収集・保存事業

<基本方針>

- 未来に継承すべき資料価値の高い人形や人形関連資料(浮世絵、書籍など)を積極的に収集する。
- 収蔵品の劣化や破損を防ぐ収蔵システムを設置するとともに、必要に応じて資料保護の観点に基づき修復を行う。

ア 収集 【収集方法】 購入、寄贈、寄託

【収集に対する考え】

- ア) 日本の人形史・人形文化史を体系化するために必要な人形
- イ) 日本の人形史・人形文化の背景を物語る絵画資料・文献資料
- ウ) 江戸・東京を中心とした関東の人形作りについて知ることができる人形等資料で、特に岩槻への人形作りの系譜について知ることができる人形等資料
- エ) 人形作家による芸術的価値の高い作品で西澤笛畝と関係がある作家の作品、また、さいたま市とゆかりのある人形作家の作品
- オ) 主な収蔵資料である西澤笛畝コレクシヨンの構成を補完・補強するために必要な人形と関係資料

イ 保存 【資料の劣化防止】

- ア) 修復 ※当面は有識者に依頼
- イ) 展示頻度(年4回程度の常設展示替え)
- ウ) 燻蒸
- エ) 保存環境の管理

(3) 展示事業

<基本方針>

- 【常設展示】 岩槻を始めとした埼玉の人形づくりの歴史や技について紹介するとともに、収蔵品から美術的、歴史民俗的価値が高い作品を展示し、歴史のなかで醸成されてきた**日本の人形文化の体系を紹介**する。
- 【企画展示】 日本と海外の人形、その周辺文化に関わるテーマ性の高い展示を行う。多様なバリエーションの展示で、**集客力を高める**。

ア 展示室1 「埼玉の人形」

岩槻を始めとした埼玉の人形作りの歴史や技について紹介

イ 展示室2 「コレクション展示」

古典籍や浮世絵など文献や絵画、「節句人形」「古典人形」「創作人形」といったジャンルごとの人形を**収蔵品から展示するコレクシヨンギャラリー**として紹介 ※四季の移ろいを意識しながら**定期的**に展示替え⇒リピーター獲得

ウ 展示室3 「企画展示」

収蔵品のみならず他館から借用した資料を活用し、**広い視野に立ったテーマ性の強い展覧会を開催**する。雛人形など歳時行事や季節感を重視した展覧会を開催するとともに、郷土人形、人形芝居のあやつり人形やからくり人形、海外の人形や玩具、現代の作家作品（人形劇、球体関節系、フィギュアなど）に至るまで**幅広い人形を紹介**する。
季節感を演出し、バラエティー豊かな展覧会を開催することで、**リピーターを増やし、集客力を高める**。

【開催頻度】 年4回程度

【テーマ性の強い企画展】 コレクターの人物像、人形の衣装や持ち物、人形が描かれた絵画、人形の文化的背景に関わる歴史資料や民俗資料など

(4) 教育普及事業

<基本方針>

【市民を中心とする人々を対象とする事業】

- 「人形」文化や「節句」について多様な体験を提供し、人形をより身近なものとして感じてもらう。
- 岩槻の人形についての情報を提供することで、児童・生徒の地域学習や総合学習の支援を行う。
- 人形をテーマとしたセミナーや講演会を開催する。

【人形づくりの後継者育成を支援する事業】

- 人形関係団体等の研修やイベント、また作品発表の場として活用してもらう。
- 若手作家を対象とした人形コンクールを開催し、優秀作は常設展示で紹介する。

【市民を中心とする人々を対象とする事業】

- ア 生涯学習支援
 - 展示解説の開催
 - 補助ツール(ワークシートやパンフレット)の作成など
- イ ワークショップ
 - 創意に満ちた製作や創作の楽しみを得ながら成果品を持ち帰ることができるプログラム
 - 企画展のテーマに関連した体験型のプログラムなど
- ウ 講座・講演会
 - 人形文化に関する講座
 - 地域と連携した講座
 - 企画展のテーマに関連した講演会など
- エ 小中学生学習支援
 - 見学
 - アウトリーチ(出前事業・講座、教材の提供)など

【人形づくりの後継者育成を支援する事業】

人形関係団体等の研修やイベント、また作家の作品発表の場として空間(施設)の貸出し

(5) 情報受発信事業

＜基本方針＞

- 人形について何でもわかる施設として**認知してもらおう**ことを目指し、全国の人形に関わる情報を収集し、調査・研究成果とともにインターネットを通じて広く発信する。
- まちや施設についての情報をインターネットや情報コーナーで紹介する。
- **集客を図るために適切な広報**を行う。

ア 収集する情報 ● 市が所蔵するコレクション関係 ● 日本の人形の歴史関係 ● 人形関係 ● 岩槻(人形製造やまち)関係

イ 発信する情報 ● 調査・研究関係 ● 人形関係 ● 館収藏品関係 ● 施設(展覧会やイベント)情報 ● 岩槻(人形製造やまち)関係
【情報提供先】 市民 学校・団体 愛好家(研究者) 関連団体・施設 一般

(6) 交流事業

＜基本方針＞

- **まちの活性化に寄与**する季節イベントを実施する。
- まちの回遊を促進する回遊ルートを設定し、情報を提供する。
- 人形や玩具をテーマとする又は資料を有する**博物館・美術館・研究機関と連携**を図り、情報交換や資料提供などを行う。

ア まちの活性化への寄与

- ア) まちのイベントと連動した展覧会、イベント、ワークショップ等の開催
 イ) まちの回遊性向上の促進 例) ルート設定、回遊の仕掛け作り、他部門との連動

イ 他の博物館(地域)等との連携

- ア) 情報交換及び資料貸借を通じた交流

(7) 飲食・物販事業

<基本方針>

【飲食】

- 簡易な飲食が取れるサービスを提供する。

【物販】

- 人形に関わる書籍、收藏資料をモチーフにした商品などを販売する。

ア 飲食

- ア) カフェの設置 イ) 休憩スペースの設置

イ 物販

- ア) ミュージアムショップの設置 イ) 図録の作成及び販売 ウ) オリジナル商品の販売

(8) その他の事業

- ボランティア組織の構築

- 友の会制度の検討

審議事項

(2) 令和5年度事業計画案について

【令和5年度目標】

＜来館者数＞ 年間7.4万人

＜博物館の認知度＞ 市内在住者 44.0% 市内在勤者 28.0%



《令和5年度事業計画案 ※重点的な取組》

1 展示事業

【基本的方向性】

[企画展示] リピーターを増やし集客力を高めることを意識した展示及びテーマ性の強い内容

年4回(特集展示※、企画展(夏)、特別展、企画展(雛))

[常設展示] 資料の劣化防止及びリピーターの獲得を意識した展示替え

年3～4回

※参考 特集展示の考え方

企画展・特別展と比べライトな内容にすることで、労力のメリハリをつける。

- パッケージ(シリーズ)をいくつか作り、繰り返し展示ができるようにする。
- 内容によっては企画展示室を半分や3分の2などに区切って開催する。
- 特別展などの既存の成果の一部で構成する。

＜主な役割＞

- ・学校見学の地域学習に対応できるよう郷土に関するメニューも作る。
- ・常設展示(展示室2)の構成に入らないバラエティー色の強いものも展開する。
- ・特別展につなげるためのプレ展示として、部分を試行展示する機会とする。

2023 年		2024 年											
令和 5 年度													
4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月		
企画展示		4 月中～6 月中 特集展示 (仮)さいたま の人形作り		7 月～8 月 企画展 (仮)共催展 or 修復成果展		10 月～11 月 特別展 (仮)岡本玉水		1 月中～3 月中 企画展 (仮)共催展 or 雛祭り展					
		展示替え 3～4回程度											
常設展示													

特集展示

(仮)さいたまの人形作り

狙い 学校見学対応(メニュー作り)

内容 特別展(R4)の成果を生かし**パネルを中心**
に「人形作り」を紹介

「鯉と遊ぶ」鈴木賢一
昭和46年(1971)



特別展

(仮)岡本玉水

狙い **奇贈品の活用**

内容 人形師・創作人形作家「**岡本玉水**」の
足跡を紹介

「助六」岡本玉水
昭和38年(1963)



企画展

(仮)共催展

狙い **取組実績(連携)の活用**

内容 人形作家「中村 信喬氏」や
日本工芸会との**共催展等**
を開催

「史記編纂」
中村 信喬



(仮)修復成果展

狙い **取組実績(修復)の活用**

内容 「**修復事業の軌跡**」を紹介

(仮)雛祭り展

狙い **歳時行事との連携**

内容 恒例の**雛祭り展**を開催

2 情報発信事業（広報・プロモーション）

【基本的方向性】

集客（及び館の認知度）を図るために広報プロモーションを行う。

広報プロモーションに当たっては、愛好家（研究者）に限らず**広く一般の方を対象**として、各種媒体及び機会を活用しながら、**岩槻における地域連携は元より、親和性の高い博物館や地域との連携も構築しながら展開する。**

<展覧会の広報>

- 展覧会開催時における**展覧会の周知**
- 平常時における（展覧会開催までの布石として）先々の**展覧会のテーマ（題材）に関する周知**
【主な周知事項】 人形のまち岩槻、人形修復、岡本玉水

<館の認知度向上に向けた広報>

- 平常時における**岩槻人形博物館の周知**
【主な周知事項】 施設（ロケーションサービス）、収蔵コレクション、西澤笛畝等コレクター、ロゴ、キャラクター（作成後）
- 平常時における**岩槻のまちの周知**

■ 交流事業

【基本的方向性】

〔平常時〕 これまでの地域連携を継続しつつ、連携に当たっては**館のプレゼンスを示していく。**

他の博物館や地域との交流を推進し、広報や展示に関し連携を検討する。

〔展覧会開催時〕 展覧会ごとにテーマに合った交流を推進する。

3 教育普及事業

(1) 小中学生学習支援

【基本的方向性】

館の組織体制に応じながら、まずはボランティア組織の構築を前提に、積極的に小学校見学の受入れを行っていくこととし、可能であればアウトリーチを検討する。

(2) 生涯学習支援(展示解説)

【基本的方向性】

展示解説については、月1回の定例開催及び展覧会開催時の開催のほか、ボランティア組織の構築を前提に、まずは小中学校の見学時に十分に対応していくこととし、可能であれば希望団体への対応、また定例開催の及び展覧会開催時の開催拡大(回数増)を検討する。

(3) ワークショップ・講座・講演会

【基本的方向性】

〔平常時〕 ワークショップ 館の組織体制に応じながら通年実施を目指しつつ、まずは展覧会開催時に実施する。

講座・講演会 実施を前提に、内容については令和4年度の結果を踏まえ検討する。

〔展覧会開催時〕 各展覧会のテーマに応じ、ワークショップ又は講座・講演会を複数回実施する。※特集展示除く

■ その他の事業(ボランティア組織の構築)

【基本的方向性】

館の組織体制の強化を図る上で、展示解説を中心とした鑑賞サポート等の役割を担ってもらうための組織の量的拡大(人数増)と、人形文化の振興を図る上で、人形に関する正確な知識を有し、館の愛好家になってもらうための組織の質的拡大とのバランスに配慮しながら構築する。